



# 講座の内容

Section 1. 人工知能の概要と開発環境

Section 2. Pythonの基礎

Section 3. 必要な数学の学習

Section 4. ニューラルネットワーク



#### Section 5. 機械学習

Section 6. 機械学習ライブラリの活用

Section 7. さらに学ぶために

# 今回の内容

- 1. Section5の概要
- 2. 学習の仕組み
- 3. 出力層の学習
- 4. 中間層の学習
- 5. 演習
- 6. 質疑応答

# 教材の紹介

#### · Section5の教材:

train\_output.ipynb train\_middle.ipynb

#### ・Section5の演習:

exercise.ipynb

# ハッシュタグ

#Live人工知能

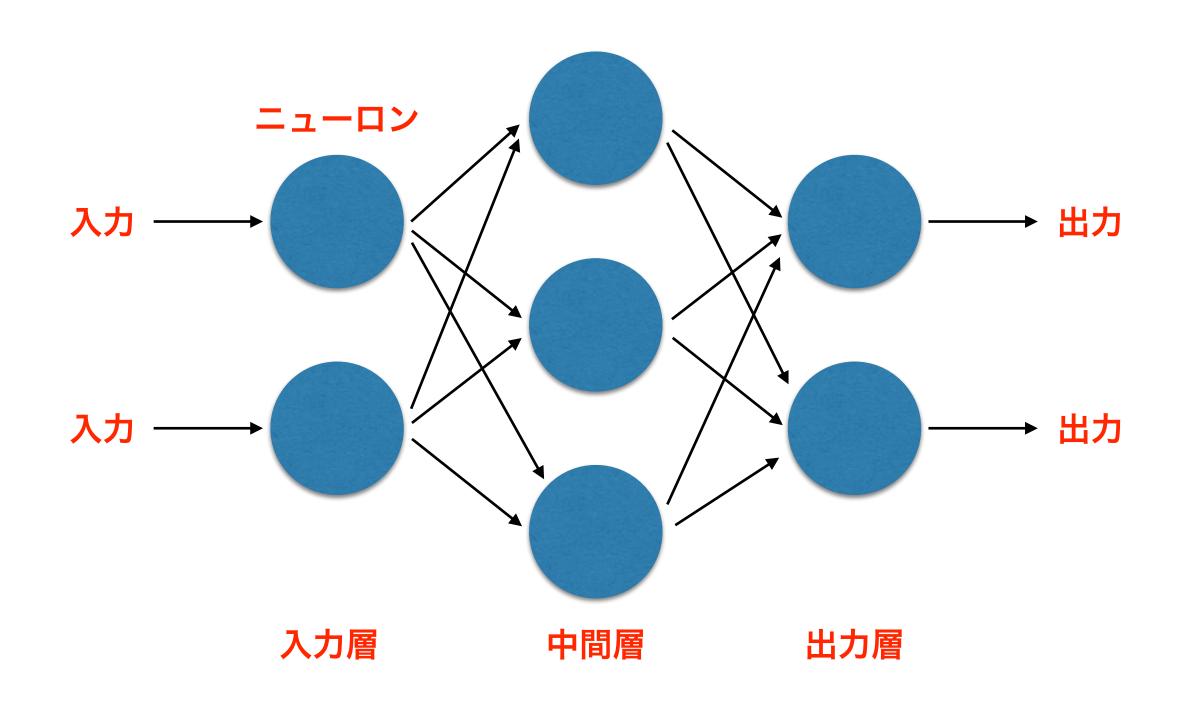
## 演習の解答 Section4

https://github.com/yukinaga/minnano\_ai/blob/master/section\_4/exercise.ipynb

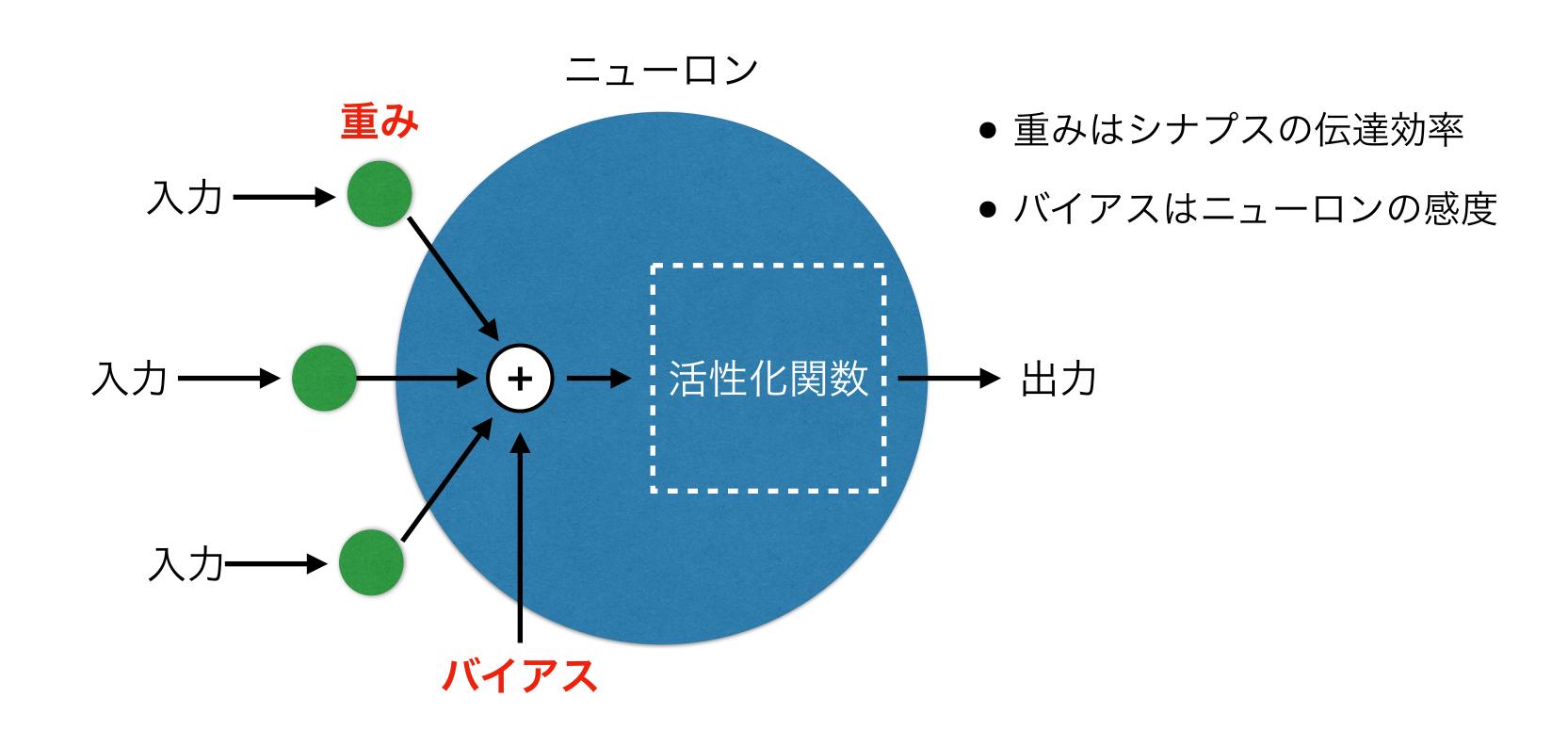


# (復習) ニューラルネットワーク

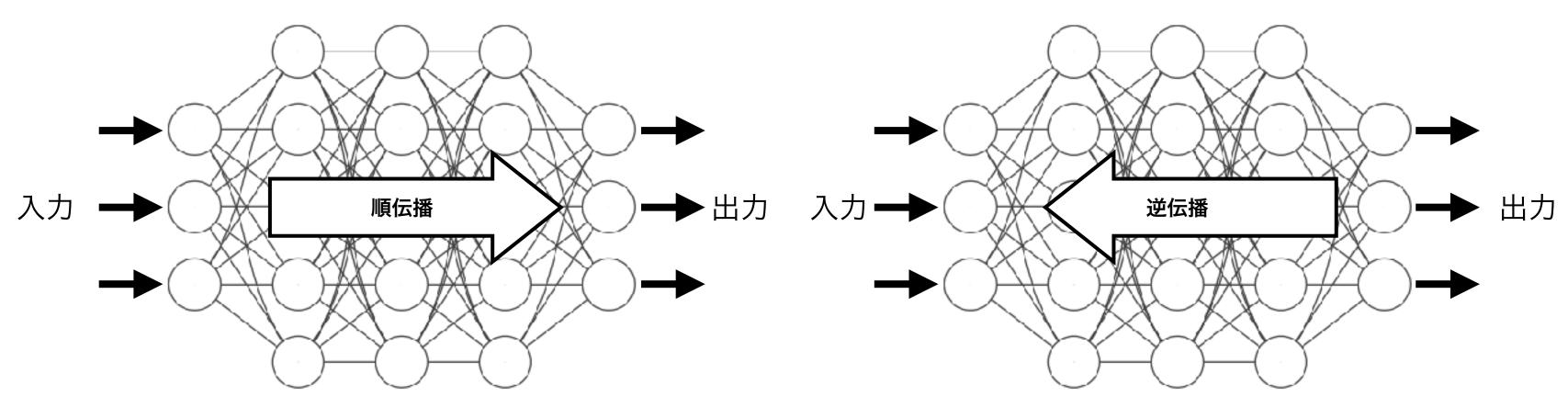
● 神経細胞のネットワークを抽象化し、コンピュータ上で再現



## (復習) ニューロン



# 順伝播と逆伝播

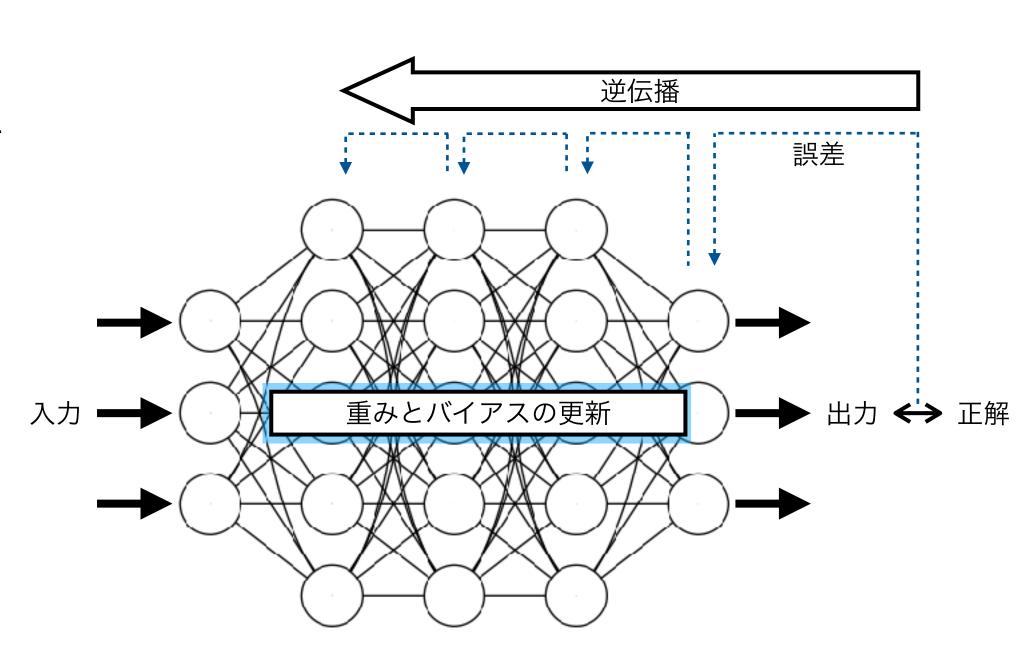


● 分類などに用いる

● 学習に用いる

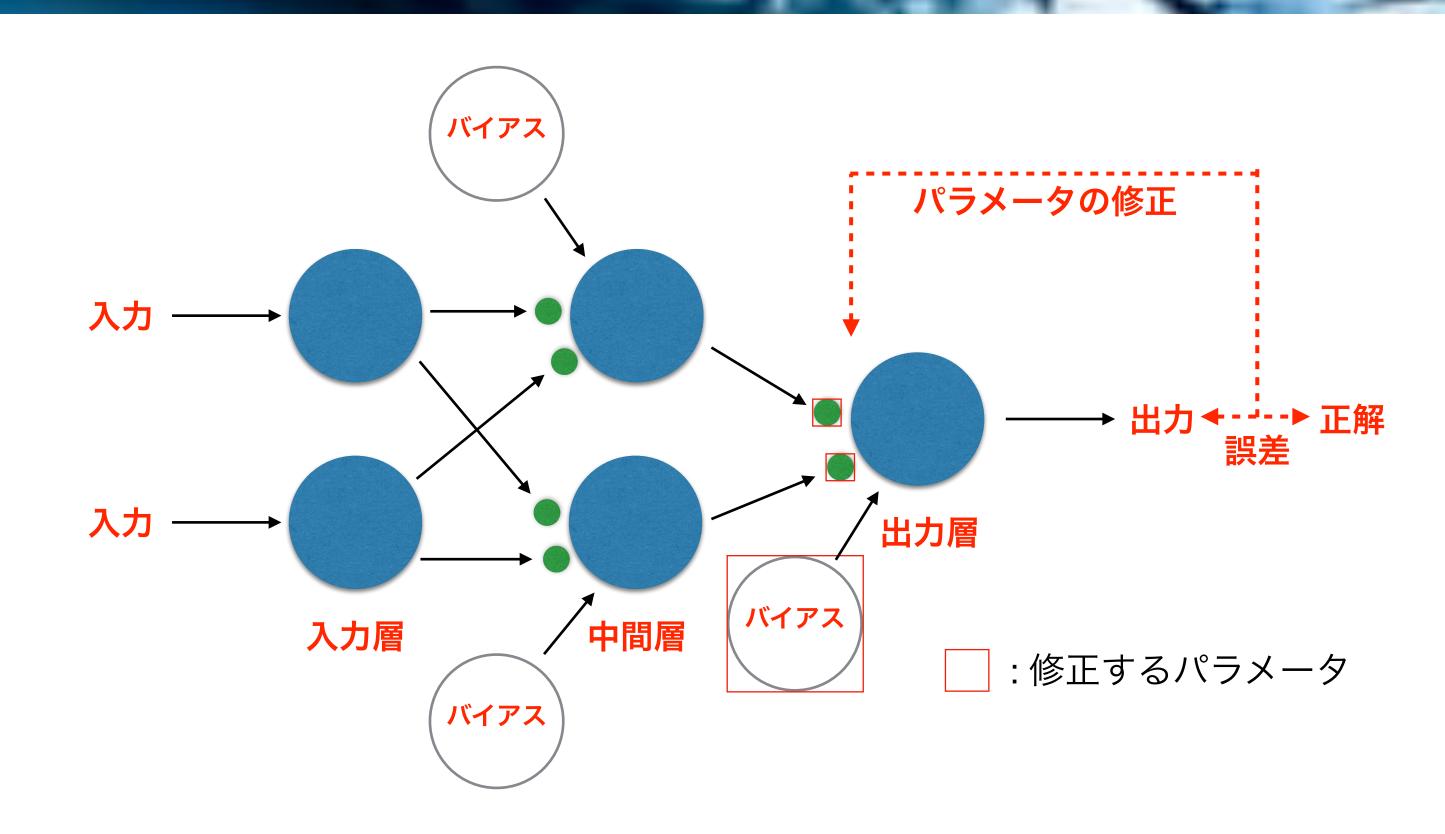
# バックプロパゲーションによる学習

- 出力と正解の誤差が小さくなるように 重みとバイアスを調整することで 学習が行われる
- 誤差の逆伝播による学習アルゴリズムは、バックプロパゲーション (誤差逆伝播法)と呼ばれる





# 出力層の学習



## パラメータの更新 (出力層)

最初に、修正量のベースδ₀を求める

δ<sub>o</sub> = (出力 - 正解) × 活性化関数の微分形

● 活性化関数がシグモイド関数の場合

 $δ_o = (出力 - 正解) × 出力 × (1 - 出力)$ 

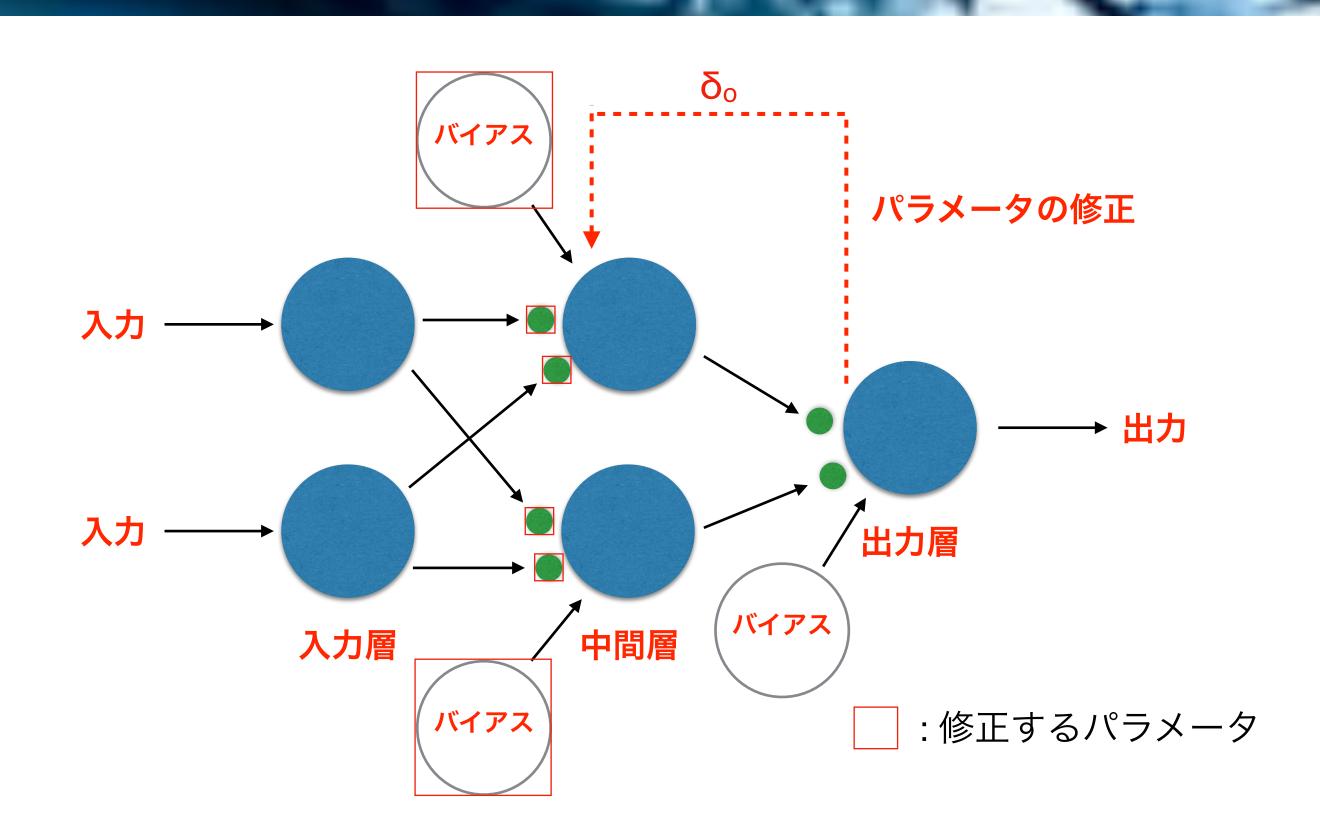
- δ₀を使って、重みとバイアスの修正量を求める
  - 重みの修正量 = 学習係数 × δ。 × 入力

バイアスの修正量 = - 学習係数  $\times \delta$ 。

● δ。は、中間層のパラメータ更新にも利用する



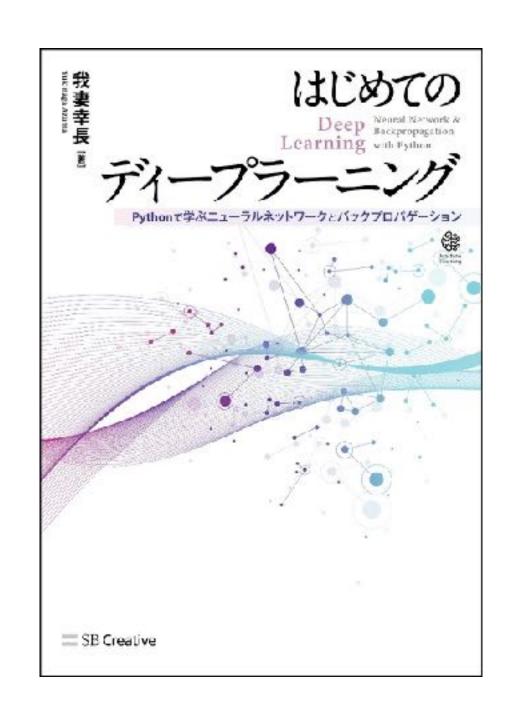
# 中間層の学習

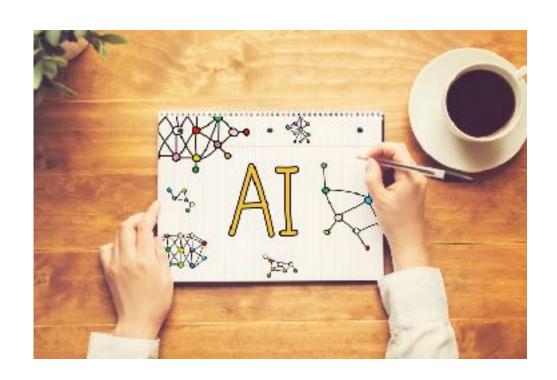


# パラメータの更新 (中間層)

- $\delta_o$ を使って、中間層における修正量のベース $\delta_m$ を求める  $\delta_m = \delta_o \times \text{出力にかける重み} \times \text{活性化関数の微分形}$
- 活性化関数がシグモイド関数の場合  $\delta_{m} = \delta_{o} \times \text{出力にかける重み } \times \text{出力 } \times (1 \text{出力})$
- $\delta_m$ を使って、重みとバイアスの修正量を求める
  重みの修正量 = 学習係数 ×  $\delta_m$  × 入力
  バイアスの修正量 = 学習係数 ×  $\delta_m$

# より詳しく学びたい方へ...





#### Udemy講座

ディープラーニング: Pythonで ゼロから構築し学ぶ人工知能 (AI)と深層学習の原理



## 次回

Section 1. 人工知能の概要と開発環境

Section 2. Pythonの基礎

Section 3. 必要な数学の学習

Section 4. ニューラルネットワーク

Section 5. 機械学習



Section 6. 機械学習ライブラリの活用

Section 7. さらに学ぶために

